



解説する大分大学病院
薬剤部の薬剤師、佐藤
雄己氏①と龍田涼佑氏



抗生物質や多種類服用 薬の正しい使い方 解説

大分大病院の公開講座「八方塾」

大分大学病院の市民公開講座「八方塾」が11月14日、由布市の同病院であった。同病院薬剤部の薬剤師が正しい薬の使い方について説明した。

佐藤雄己副部長は、細菌に効果がある抗生物質の過剰な処方がある原因で、効かない耐性菌が急速に拡大していると指摘。「耐性菌への新薬の開発も進んでおらず、対策を打たなければ2050年に世界で死者が1千万人になるとされる。風邪の原因の9割はウイルスで抗生物質は効果がないことを理解して、適切な管理を心掛けてほしい」と話した。

龍田涼佑主任は、必要以上に多くの薬を服用している「ポリファーマシー」について解説した。「5、6種類以上の服用が目安で、複数の病院を受診している高齢者に多い。飲み忘れや相互作用による健康被害、医療費の増大などの問題がある。処方されている薬を管理しやすくするため、1冊の『おくすり手帳』に全ての薬の情報をまとめてほしい」と呼び掛けた。